

日本一の川目指して 銚子川流域で看板清掃



銚子川沿いの看板の汚れを落とす参加者

紀北町の銚子川流域で十八日午前九時から、「サインクリーンアップ」と題した標識や看板の清掃活動が行われた。

「銚子川を日本一の川に」を合言葉に、銚子川の環境保全に取り組んでいるNPO法人「ふるさと企画舎（田上至理理事長）」がモラル面の向上を目指して昨年から行っているもので、美し国おこし・三重の「人と人との場つ

くりプロジェクト」にも位置付けられており、この日の作業には三歳から五十代まで十五人が参加した。

開会のあいさつで田上理事長は「前回から少しずつ進化している。看板は大事なものである。さらに進化させて銚子川の環境を大事にする看板を考えていきたい。今日はそれ

らも考えながら清掃していただき、こういう看板がほしいというようない意見があればありがたい」とあいさつした。

清掃範囲は、国道42号銚子橋南詰めから魚

飛びの橋付近までおよそ六・五キロ。この区間には町や県、国、商工会が設置したごみ捨て禁止の看板や銚子川流域マップ、案内標識、水源かん養保安林説明看板、魚飛溪の形状石位置図、魚飛生活環境保全林イラスト看板、鳥獣保護区表示など、三十九カ所に大小五十

枚の看板があり、参加した人たちは四班に分かれておおよそ一時間余りの作業を展開。スポンジを使った水洗いで、看板の表面に付いたこの一年間の泥を洗い流したり、看板を隠すように伸びる草を刈り取って、看板とその周辺を見違えるようにきれいにし、景観と安全性を高めた。

このあと、カボチャプリンなど、銚子川の水で育てたカボチャを使ったスイーツに舌鼓を打ちながら懇談の時間を持ち、清掃活動の感想や今後の看板の新設などについて意見を交換した。

初めて行った昨年の清掃で、老朽化した看板や文字が消えている看板が見つかり、関係機関に要望した結果、これまでに朽ち果てた看板二枚が撤去されたほか、一枚を更新して一枚を新設、六枚の改修が行われたほか、今年中に二枚の更新を予定するなど改善が図られており、田上理事長

加した人たちは四班に分かれておおよそ一時間余りの作業を展開。スポンジを使った水洗いで、看板の表面に付いたこの一年間の泥を洗い流したり、看板を隠すように伸びる草を刈り取って、看板とその周辺を見違えるようにきれいにし、景観と安全性を高めた。